

令和元年 5 月 8 日
総合教育会議資料
オリンピック・パラリンピック担当
生涯学習スポーツ課

市立小中学校オリンピック・パラリンピック教育に対する支援について

武蔵野市では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を、子どもたちのスポーツへの関心や体力・運動能力の向上、障害者スポーツの理解と普及や共生社会の実現に向けた大きな機会であると捉えています。そこで、学校教育の場においてもラグビー・バレーボール授業の支援、障害者アスリートやパラリンピック競技団体による体験学習などを行うことは、子どもたちの学習機会として大変有意義であると考え、下記のとおりオリンピック・パラリンピック競技の体験学習について支援しています。

記

■ 事業名：市立小中学校オリンピック・パラリンピック教育に対する支援

■ 内 容：以下の 3 種類の事業を実施中。

【ラグビー】東京学芸大学、アトラスターズ、アルテミ・スターズ、成蹊大学ラグビー部の協力により、教員向けの指導者講習会、導入 1 回目の授業への講師、アシスタント派遣、中間期あるいは最終回での横河武蔵野アトラスターズ選手、アルテミ・スターズ選手および成蹊大学ラグビー部員との交流を実施。平成 29（2017）年度から。

【バレーボール】市内在住のオリンピック選手櫻井由香氏の協力により、体育授業支援（バレーボールあるいはソフトバレーボール実技体験）やオリンピック講話を実施。平成 30（2018）年度から。

【パラリンピック競技】シッティングバレーボール、ボッチャ、ブラインドサッカー、視覚障がい者マラソンにおいて、東京 2020 大会を目指す選手、または競技団体による体験学習。体験学習を通じたパラスポーツと障がいの理解醸成。平成 30（2018）年度から。

■ 対象校：市立小学校 12 校、及び市立中学校 6 校

■ 費 用：企画調整課予算、生涯学習スポーツ課予算

■ 担 当：武蔵野市総合政策部企画調整課 オリンピック・パラリンピック担当

武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課 スポーツ振興係